

地域日本語教育実践プログラム(A)

地域住民としてのライフステージを支える 地域日本語教室運営事業

国立大学法人 名古屋大学

発表者 萩原栄子 得永美穂

名古屋大学と豊田市の連携について

平成20年度より、名古屋大学が豊田市から日本語教育事業を受託。
とよた日本語学習支援システムを構築、運用。

能力判定

人材育成

教室運営

Eラーニング

- ・豊田市の外国人（H25.4現在）

13,143人／422,010人(3.1%)

- ・外国人の長期滞在者が増加
（ブラジル、中国、フィリピン、ペルー等）

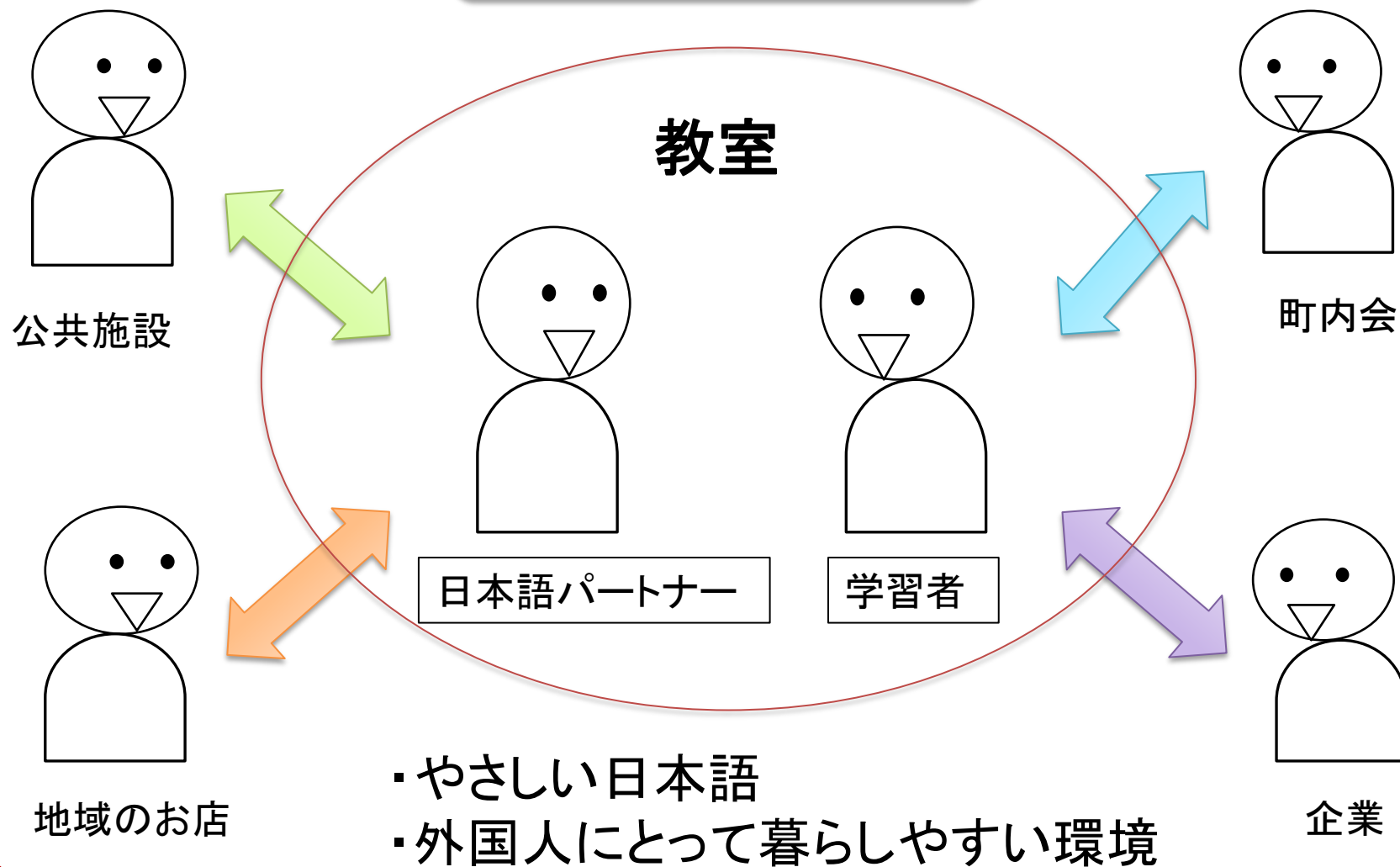


- ・外国人が「生活日本語」と「生活知識」を習得
- ・地域日本人が「やさしい日本語」を習得

課題

つなぐ

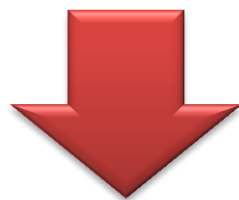
地域社会



事業のねらい

多文化共生社会の構築

地域外国人と日本人が、地域の課題を同じ立場で考えることで、皆にとって「より豊かで快適な社会」を目指す



地域住民としてのライフステージを支える教室

事業の内容

①指導者および
教材作成者の育成研修会



②教室運営
(救急・図書館・防災
ごみ・豊田の野菜)

③教材作成

①指導者および教材作成者の育成研修会

ねらい

- ・地域と協働した教室活動
- ・それぞれの学習者にとって必要な日本語が学べる教材



教育プログラムおよび教材作成のできる人材の育成

実習

参加者15名 全10回 40時間

1. 全員が地域の特性やニーズをとらえ、企画案を作成
2. テーマ・協働先の決定（「地域医療センター」「フードセンターいたくら」）
3. 打診・交渉・準備（交渉過程を録音・記録し、全員で共有）
4. モニター学習者との体験活動（映像・音声記録）
5. 映像・音声記録のふりかえり（音声の文字化）
6. 教育プログラム・教材の作成

②教室運営（救急・図書館・防災・ ごみ・豊田の野菜）

1. イメージをつかむ
学習目標の認識・設定

2. 体験・行動する

3. ことば・
表現を知る

4. 発展的な活動

皆にやさしい公共施設のあり方を 提案する ～図書館～

第1回 イメージをつかむ 学習目標の認識・設定



多言語で読み聞かせ

図書館職員が図書館紹介



第2回: 体験活動



カードを作り本を借りる

第3回: ことばや表現を知る／発展的な活動



映像を音声文字化記録でふりかえり



「良い点」と「改善点」の提案

団地の住民として団地の課題に取り組む（ごみ）

第1回：学習目標の認識・設定



団地のごみ捨て場の現状を知る

第2、3回：体験活動



エコファミリーカードと
リサイクルステーション の活用

第4回：発展的な活動（地域へ発信）

成果

- ・外国人住民の生活の領域が拡大した
- ・地域住民との共同体験を通し、参加者全員が共生社会や共通課題について意識するようになった
- ・公的機関や地域のお店など協働者の多文化共生への参画意識が高まった

今後の課題

- ・習得した日本語の定着および実生活での運用
- ・市の各部署やその他の機関、町内会、地域のお店など、協働先を拡げる

名古屋大学と豊田市の連携について

平成20年度より、名古屋大学が豊田市から日本語教育事業を委託
とよた日本語学習支援システムを構築、運用。

協力校

人材育成

教材開発

システム構築

・豊田市の外国人（105,4町市）
13,143人 / 422,010人（3.1%）

・外国人の長期滞在者が増加
（フィリピン、中国、タイ、ベトナム等）

・外国人が「生活日本語」と「生活知識」を習得
・地域日本人が「やさしい日本語」を習得

地域住民としてのライフステージを支える
地域日本語学習支援事業

名古屋大学 名古屋大学 名古屋大学

課題



事業のねらい

多文化共生社会の構築

地域外国人と日本人が、地域生活に関与し、互に学びあうことで、豊かであり、多様な文化が花開く社会を目指す。



地域住民としてのライフステージを支える事業

事業の内容

①指導者および教材作成者の育成研修会

②教室運営 (教皇・図書館・防災 ごみ・豊田の野菜)

③教材作成

①指導者および教材作成者の育成研修会

ねらい

・地域と協働した教室活動
・それぞれの学習者にとって必要な日本語が学べる教材
・教育プログラムおよび教材作成のできる人材の育成

実施

1. 全員が地域の特性やニーズを捉え、企画案を作成
2. テーマ・協働先の決定（地域生活者との連携）
3. 打ち合わせ・準備
4. モニター学習者との体験活動（教皇・図書館）
5. 録画・音声記録のとりかえり
6. 教育プログラム・教材の作成

②教室運営（教皇・図書館・防災・ごみ・豊田の野菜）

1. イメージをつくる
学習目標の明確・設定

4. 実証的な活動

2. 体験・学習する

3. コレクション
整理・分析



成果

- ・外国人住民の生活の領域が拡大した
- ・地域住民との共同体験を通じ、参加者全員が共生社会や共通課題について意識するようになった
- ・公的機関や地域のお店など協働者の多文化共生への参画意識が高まった

今後の課題

- ・習得した日本語の得意なより生活での活用
- ・市の各部署やその他の機関、自治体、地域の団体など、協働先を拡げる

団地の住民として団地の課題に取り組む（ごみ）

第1回：学習目標の明確・設定



団地のごみ捨て場の現状を知る

第2回：体験活動



エコリポートとリサイクルショップの活用

